

# ASBJ Newsletter



## 目次

1. 企業会計基準等の開発（2009年2月9日～2009年3月31日）
2. 企業会計基準委員会の概要（第171回～第173回）
3. IASB 及び FASF に対する ASBJ のコメント（2009年2月1日～2009年3月31日）
4. 企業会計審議会・企画調整部会「我が国における国際会計基準の取扱いについて（中間報告）（案）」に対して ASBJ のコメント（2009年4月6日）を提出
5. FASF との定期協議を開催
6. IASB との共同会議を開催
7. Sir David Tweedie IASB 議長と市場関係者との懇談会を開催
8. 遠藤 FASF 常務理事がアジア各地の会計基準設定主体を訪問
9. 第2回日本証券サミット（香港）にて新井 ASBJ 常勤委員が講演
10. 第6回基準諮問会議を開催
11. 理事会・評議員合同会議を開催
12. 日本内部統制大賞－Integrity Award－会計人奨励賞 2009 を新井 ASBJ 常勤委員が受章
13. プロジェクト進捗（コンバージェンス関連項目） 2009年4月1日現在
14. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

## 1. 企業会計基準等の開発（2009年2月9日～2009年3月31日）

### 1) 【Final】[企業結合会計基準等の公表に伴う他の会計基準等の改正](#)の公表（2009年3月27日）

#### 【凡例】

DP：論点整理・検討状況の整理

ED：公開草案

Final：会計基準/適用指針等（最終）

## 2. 企業会計基準委員会の概要（第171回～第173回）

### 1) [第171回（2009年2月12日開催）](#)

- a. 公開草案「電子記録債権に係る会計処理及び表示についての実務上の取扱い（案）」【公表議決】
- b. 過年度遡及修正専門委員会における検討状況
- c. 排出権取引専門委員会における検討状況
- d. 財務諸表表示専門委員会における検討状況
- e. 収益認識専門委員会における検討状況
- f. プロジェクトの進捗状況
- g. 企業結合会計基準等の公表に伴う他の会計基準の改正

a. 委員会では、基準諮問会議からの検討提言を受けて、電子記録債権の会計処理等を検討していましたが、手形債権に準じて取り扱うこと等を内容とする実務対応報告の公表を議決しました。

公開草案は、2月17日に公表されています（3月10日にコメント受付は終了）。

b. 適用初年度の取扱い、誤謬の修正再表示が実務上不可能な場合の取扱いを中心に文案の検討が行われました。

適用初年度の比較財務諸表において会計

方針の変更等が行われている場合の遡及処理については、作成者への負担等を勘案して当該比較財務諸表では遡及処理を行わない方向で検討されています。

c. 「試行排出量取引スキーム」の概要説明と論点となる項目の説明が行われました。

d. 及び e. 国際会計基準審議会（IASB）/米国財務会計基準審議会（FASB）の予備的見解の内容に係る議論が行われました。

f. 現在、委員会で検討されている各プロジェクトの進捗についての報告が行われました。

金融商品の公正価値測定に関しては、IASBの公開草案公表が早まるとの情報があることから、この内容を踏まえた論点整理にするべく、公表時期を当初計画より繰り延べることが報告されました。

g. 昨年12月の企業結合基準等の公表を受けた他の基準等の所要の修正対応についての説明が行われました。

### 2) [第172回（2009年2月26日開催）](#)

- a. 過年度遡及修正専門委員会における検討状況
- b. 排出権取引専門委員会における検討状況
- c. 財務諸表表示専門委員会における検討状況
- d. 収益認識専門委員会における検討状況
- e. 金融商品専門委員会における検討状況（現行基準の見直し）
- f. 特別目的会社専門委員会における検討状況

a. 公開草案の文案の検討が行われました。

適用時期については、平成23年4月1日以後開始する事業年度の期首以降に行われる会計上の変更及び誤謬の訂正からとし、将来に向かって適用することとされています。

す。

また、誤謬の修正再表示が実務上不可能な場合の取扱いについては、基準本文には規定を設けない方向で検討が行われました。なお、この取扱いは、国際財務報告基準(IFRS)と異なることから3月に開催されたIASBとの共同会議で議論のテーマとして取り上げ、検討が行われています。

b. 「試行排出量取引スキーム」では、企業は、あらかじめ設定した排出総量目標に相当する排出枠の交付を政府から受けますが、従来の排出量取引に係る実務対応報告では、この取扱いに対応していないため、その会計処理についての検討を行っています。

c.及び d. 前回に引き続き、IASB/FASBの予備的見解に対するコメント案の検討が行われました。

e. 現行の金融商品のうち、ヘッジ会計に係る部分の我が国会計基準と国際的な会計基準との相違点、国際的な動向及び今後検討が必要な論点を整理し、報告が行われました。

g. IASBのED10「連結財務諸表」の概要説明とコメントの検討が行われました。

### 3) [第173回 \(2009年3月19日開催\)](#)

- |                                    |
|------------------------------------|
| a. 企業結合会計基準等の公表に伴う他の会計基準等の改正【公表議決】 |
| b. 過年度遡及修正専門委員会における検討状況            |
| c. 排出権取引専門委員会における検討状況              |
| d. 金融商品専門委員会における検討状況               |
| e. 財務諸表表示専門委員会における検討状況             |
| f. 引当金専門委員会における検討状況                |

a. 本基準等の改正は、昨年12月に公表された企業結合会計基準等の公表を受けての

技術的な修正のため、公開草案公表の手続きを経ずに公表されることが議決されました。改正基準等は、3月27日に公表されています。

b.及びc. 次回委員会での公開草案公表を前に文案の検討が行われました。

d. 電子記録債権に係る公開草案のコメントの紹介と対応についての検討が行われました。大きな内容変更を必要とするコメントはありませんでした。

e. 予備的見解に対するコメント案の検討が行われました。

各計算書の「一体性」を過度に重視することにより生じる問題や、直接法によるキャッシュ・フロー計算書作成についてのコスト・ベネフィットの観点からの懸念が検討されています。

### 3. IASB及びFASBに対するASBJのコメント(2009年2月1日~2009年3月31日)

1) [IAS第24号「関連当事者についての開示」の改訂の公開草案：『国との関係』に対するコメント](#)を提出(2009年3月13日)

(公開草案の原文は[こちら](#))

2) [「公開草案\(ED10\)『連結財務諸表』に対するコメント」](#)を提出(2009年3月19日)

(公開草案の原文は[こちら](#))

4. 企業会計審議会・企画調整部会「我が国における国際会計基準の取扱いについて（中間報告）（案）」に対して [ASBJのコメント（2009年4月6日）](#) を提出

企業会計基準委員会（ASBJ）では、4月6日、コメント募集に付されていた企業会計審議会・企画調整部会の「我が国における国際会計基準の取扱いについて（中間報告）（案）」に対し、4つの論点をもってコメントを提出しました。

（「我が国における国際会計基準の取扱いについて（中間報告）（案）」の本文は [こちら](#)）

日時	議題と内容
3/9 午後	<p><u>収益認識</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">FASB/IASB のディスカッション・ペーパー「顧客との契約における収益認識についての予備的見解」</a></li> </ul> <hr/> <p><u>グローバルな会計基準に向けた戦略</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国際的な金融危機に対する会計基準設定主体の対応</li> <li>● コンバージェンスに向けた取組み（米国 SEC のロードマップ案、企業会計審議会企画調整部会の中間報告案を含む）</li> </ul>
3/10 午前	<p><u>財務諸表の表示</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="#">FASB/IASB のディスカッション・ペーパー「財務諸表の表示に関する予備的見解」に対するASBJのコメント案</a></li> </ul>

5. [FASB との定期協議](#) を開催

ASBJとFASBは、3月9日と10日にわたり、東京にて第7回定期協議を行いました。

ASBJからは西川委員長をはじめとする委員とスタッフ、FASBからはLinsmeier委員とスタッフがそれぞれ参加しました。また、IASBから山田理事がオブザーバーとして出席しています。

当日の会議のスケジュール及び議題は以下のとおりです。

日時	議題と内容
3/9 午前	<p><u>連結（SPEを含む）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● FIN 第 46 号(R)の改訂プロジェクト</li> <li>● <a href="#">IASBの公開草案第10号「連結」に対するASBJのコメント案</a></li> </ul> <hr/> <p><u>金融商品</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保有区分、保有目的区分の変更とヘッジ会計との関係、減損に関する議論</li> </ul>

今回の定期協議は、2009年10月に米国コネチカット州ノーウォークで開催する予定です。

6. [IASB との共同会議](#) を開催

ASBJとIASBは、3月11日と12日の2日間にわたり、東京にて第9回共同会議を開催しました。ASBJからは西川委員長をはじめとする委員6名及びスタッフ、IASBからはTweedie議長をはじめとするボードメンバー3名及びスタッフが参加しています。

当日の会議のスケジュール及び議題は以下の通りです。

日時	議題
3/11 午前	IASB の活動のアップデート ASBJ の活動のアップデート

日時	議題
3/11 午後 (公開)	ASBJの活動のアップデート 過年度遡及修正 個別プロジェクト① 金融商品 収益認識 連結
3/12 午前 (公開)	個別プロジェクト② 財務諸表の表示 連結

IASBの活動のアップデートでは、金融危機、リース、退職後給付等を中心としたIASBの活動や、各国でのIFRSの適用に関する論点に関する議論を行いました。



ASBJの活動のアップデートでは、昨年末の短期項目のコンバージェンスの完了後、中期及び中長期のコンバージェンス項目を中心に検討を進め、コンバージェンスの加速化を図っていること、及び、2月に公表された「我が国における国際会計基準の取扱いについて（中間報告）（案）」について説明を行いました。また、過年度遡及修正のプロジェクトにおける、過去の誤謬の修正再表示が実務上不可能な場合の取扱いについても議論を行いました。

金融商品に関しては、保有区分、保有区分の変更とヘッジ会計との関係、減損の3つの論点に関する議論を行いました。収益認識では、昨年12月にIASB/FASBから公表された[ディスカッション・ペーパー](#)につ

て議論を行いました。[財務諸表の表示と連結](#)では、それぞれのプロジェクトで公表されているディスカッション・ペーパー及び公開草案に対するASBJのコメント案について議論を行いました。



次回の共同会議は、2009年9月にロンドンで開催する予定です。

## 7. Sir David Tweedie IASB 議長と市場関係者との懇談会を開催

ASBJ は、IASB との第 9 回共同会議に合わせて、日本の市場関係者が Sir David Tweedie IASB 議長はじめボードメンバーを囲み、日本における IFRS の適用に向けた議論を含む IFRS を巡る最近の動向について、相互理解を深める懇談会を、3 月 11 日ホテルオークラ東京にて開催しました。当日は、早朝にも関わらず、各界において会計制度に携わる 30 名以上の方々が参加されました。

開会にあたり、西川 ASBJ 委員長より企業会計審議会企画調整部会が「我が国における国際会計基準の取扱いについて（中間報告）（案）」を公表しており、このような動きの中で、市場関係者の皆様が IASB の活動への理解を深めて頂くことは、従前にも増して重要となってきたと考えている旨の挨拶がありました。

一方、Tweedie IASB 議長からは、同中間報告案が公表されたことに触れ、これまでの支援に対する謝辞がのべられた。その後、「The Memorandum of Understanding with the USA and the Financial Crisis」と題して、退職後給付や収益認識等の IASB におけるプロジェクトの進捗状況及び金融危機に対する IASB の対応に関するプレゼンテーションが行われました。



その後、参加者と IASB 関係者の間で、IFRS の取扱いに係る米国の状況や IASB のプロジェクトに関して意見交換が行われました。なお、参加者から出た主な質問や意見は次のとおりです。

- ・米国は IFRS に係るロードマップについて現在どのように考えているのか。
- ・財務諸表の表示に関する予備的見解におけるキャッシュ・フロー計算書の取扱いには企業にとって事務負担等の重要な問題がある。
- ・退職給付については、貸借対照表上でオンバランスすることで十分ではないか。
- ・ルールベースからプリンシプルベースに変わった際に、どのような変化があり、また、どのようなところは変わらないのか。
- ・保険の契約の議論は、各プロジェクトの間の整合性を勘案して慎重に進めて頂きたい。

このように本懇談会はお互いの状況を理解し、今後の活動を円滑に進めていくに足る充実したものとなりました。

## 8. 遠藤 FASF 常務理事がアジア各地の会計基準設定主体を訪問

財務会計基準機構 (FASF) の遠藤常務理事は、2月26日から3月6日にかけてアジア各国の会計基準設定主体の関係者中心に訪問しました。今回の訪問は、企業会計審議会企画調整部会による「我が国における会計基準の取扱いについて (中間報告) (案)」が公表され、日本における IFRS の導入が現実の課題として受け止められつつあることを踏まえ、IFRS のアドプションやコンバージェンスの展開、及び、IASB や国際会計基準委員会財団 (IASCF) への参画・関与の在り方などについて情報交換や意見交換を行うことを目的としました。さらに、昨年10月に北京で開催された日中韓3カ国会計基準設定主体会議において提案されたアジア・オセアニア地域におけるコミュニケーションを促進するための新たな枠組み (AOSSG) についても、各国と意見交換を行いました。なお、香港では、ASBJ の新井常勤委員も参加しました。

訪問スケジュールと主な相手先は以下のとおりです。

2月27日
タイ会計基準委員会 (ASB) / 会計士協会 (FAP) ・ Narong Puntawong 委員 他 4 名
タイ商務省 (DBD) ・ Chutamane Yodsaeng トレード・オフィサー 他 2 名

3月2日
<b>マレーシア会計基準審議会 (MASB)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dato' Zainal Abidin Puthi MASB委員長</li> <li>・ Dr. Sushila エグゼクティブ・ディレクター</li> <li>・ Tan Bee Leng 上席テクニカル・マネージャー</li> </ul> <b>マレーシア証券取引所 (Bursa Malaysia)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Surina Jaafar 上席マネージャー 他2名</li> </ul> <b>Deloitte Malaysia</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dr. Nordin Mohd Zaine (エグゼクティブ・ディレクター)</li> </ul>
3月3日
<b>シンガポール会計基準委員会 (ASC)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Philip Eng 委員 他5名</li> </ul>
3月5日
<b>香港証券取引所 (HKEx)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Colin Chau 上席バイス・プレジデント</li> <li>・ Olivia Cheung アシスタント・バイス・プレジデント</li> </ul> <b>香港会計士協会 (HKICPA)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Clement Chan 財務報告基準委員会副議長</li> <li>・ Steve Ong ディレクター</li> <li>・ Winnie Chan マネージャー</li> </ul>

訪問先では各国の法体系及びデュー・プロセスの中でどのように IFRS を受容し、あるいは受容するつもりかを主に尋ねましたが、フル・アドプションに向けた課題として商慣行の違い（不動産契約や農業関係など）、翻訳の問題及び中小企業が多いことに対するの簡略化された IFRS への高いニーズがあることが共通していました。しかし、カーブアウトや独自の解釈指針の必要性については意見が分かれていました。また、マレーシアでは IFRS とイスラム会計の融合について強い関心が示されました。

AOSSG 構想に対しては各国とも概ね好

意的であり、アジアとヨーロッパの商習慣の違いに起因する共通の問題について IASB に対して意見発信を行い、IFRS がもはやヨーロッパだけの会計基準ではないことを認識してもらう必要があるとの声が聞かれました。さらに、複数の関係者から IASB へボードメンバーを送っている日本がイニシアティブを取ることへ期待感が表明されました。

ASBJ/FASF としては、今回の訪問で得られた各国の取組みや問題意識に関する理解を踏まえ、世界的な会計基準の統一化の流れの中で、今後もアジア・オセアニア地域の一員として地域に貢献できるよう積極的に活動していく予定です。

## 9. 第2回日本証券サミット（香港）にて新井 ASBJ 常勤委員が講演

2009年3月5日、日本証券業協会と香港証券業協会（Hong Kong Stockbrokers Association）の共催により、香港のフォーシーズンズホテルにおいて日本証券サミット（Japan Securities Summit）が開催されました。昨年のロンドンに続き2回目となるこのセミナーは、日本の証券市場及び投資対象としての日本の魅力を海外の機関投資家にPRすることを目的としています。セミナーではトヨタ自動車相談役・内閣特別顧問である奥田碩氏が「日本経済の現状と今後の展望」と題して基調講演を行い、第一線のエコノミスト、業界の経営トップ、政府関係者（金融庁、経済産業省）、学識経験者らと香港の第一線で活躍する業界関係者らが、日本の証券市場に関する幅広いテーマについて活発な議論を展開しました。

ASBJ の新井常勤委員は日本の会計基準を紹介する午後のセッションで登壇しまし

た。「単一の高品質なグローバル基準に向けて」と題した講演で新井委員は、国際的な会計基準へのコンバージェンスへ向けた日本の取組みと、ASBJの基準開発の状況を紹介しました。また、2009年2月に企業会計審議会企画調整部会から公表された「我が国における国際会計基準の取扱いについて（中間報告）（案）」について紹介するとともに、日本におけるIFRSの受入れに際してASBJの積極的な関与が市場関係者から期待されているとも述べています。さらに、金融危機への対応として昨年10月に公表した実務対応報告第25号「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」及び第26号「債券の保有目的区分の変更に関する当面の取扱い」にも触れ、危機に直面した市場に対する会計基準設定主体の姿勢として、透明性を維持・補強することが大切であり、デュー・プロセス及び高品質な会計基準を維持することが信頼性の確保につながることを強調しました。

今回のセミナーは米国に端を発した世界的な金融危機が続く中での開催にも関わらず300名を超える参加者を集め、グローバルな金融センターである香港の機関投資家が日本に寄せる関心の高さが窺われました。

## 10. 第6回基準諮問会議を開催

2月19日に、第6回基準諮問会議を開催しました。会議では、まず金融庁の三井企業開示課長より、企業会計審議会・企画調整部会「我が国における国際会計基準の取扱いについて（中間報告）（案）」について報告がなされました。その後、IFRSの任意適用の時期と任意適用企業の対象範囲、会計処理の差異の開示、プリンシプルベースの基準への対応、エンドースメントの方法、

強制適用の時期や導入に伴うコストの問題等について、意見交換が行われました。

続いてASBJから最近の活動状況等についての報告がなされました。また、昨年11月にASBJに対して提言を行った「電子記録債権にかかる会計処理」及び「新たな自社株式保有スキームにかかる会計処理」に関して、その後の審議状況についても併せて報告がなされました。

その後、企業会計審議会から公表された中間報告（案）に対するASBJとしての対応、IASBから公表される論点整理等に対するコメント方法等について、意見交換が行われました。

## 11. 理事会・評議員合同会議を開催

財務会計基準機構は、2009年3月26日に理事会・評議員会合同会議を開催し、以下の内容を決議しました。

- [第9期（平成21年度）事業計画](#)
- [第9期（平成21年度）収支予算](#)
- 評議員、理事・監事、企業会計基準委員会委員及び基準諮問会議委員の選任

## 12. [日本内部統制大賞－Integrity Award－会計人奨励賞 2009](#)を新井ASBJ常勤委員が受章

ASBJの新井常勤委員が、この度、日本内部統制大賞－Integrity Award－審議会から「会計人奨励賞 2009」を授与されました。

「日本内部統制大賞 2009－Integrity Award－」は、内部統制システムが効率的な企業経営を行うために重要であることを示していくとともに、コンプライアンス重視の経営が中長期的に見て競争力を持つこ



とを評価しつつ、そのような意識に優れた企業を応援することを目的としています。そして、昨年からはさらに「次代を担う会計人の中で、(1)国際的な視点から幅広く会計業務に邁進している、(2)わが国会計制度の発展に向けて貢献している、さらには (3)公認会計士の職業や役割等についての広報活動に貢献している、3名以内の功労者に対して、特別賞「会計人奨励賞－Accountant Encouragement Award－」が授与されるものです。



(写真提供 「フィナンシャル ジャパン」編集部)

表彰式は、3月17日に東証ホールにて開催され、その中で新井常勤委員は受賞の喜びを次のように述べています。

「会計人奨励賞という、次世代を担う会計人に贈られる賞をいただき、大変光栄に感じています。金融資本市場のグローバル化の中、日本においても上場会社のIFRS導入が視野に入っています。国際社会、特にアジアにおける日本の立ち位置を意識して、金融資本市場の信頼性・透明性を増強する、高品質なグローバルな会計基準の構築に向けて取り組んでいきます。」

ASBJでは、この受賞が日本の会計人の励みの一つとなることを願って止みません。

なお、その他の受賞者の方々は以下のとおりです。

- ✓ 会計人奨励賞 2009
  - 関根愛子 氏 (公認会計士、あらた監査法人代表社員)
  - 屋宮久光 氏 (公認会計士・税理士)
- ✓ 日本内部統制大賞 2009－Integrity Award－
  - 最優秀賞  
株式会社資生堂
  - 優秀賞  
株式会社ベネッセコーポレーション  
オムロン株式会社

13. プロジェクト進捗（コンバージェンス関連項目） 2009年4月1日現在

	2008年 7-9月	2008年 10-12月	2009年 1-3月	2009年 4-6月	2009年 7-9月	2009年 10-12月	2010年
<b>1.EUによる同等性評価に関連するプロジェクト項目（短期）</b>							
企業結合（ステップ1）	<i>Final</i>						
棚卸資産（後入先出法）	<i>Final</i>						
固定資産（減損）							
無形資産（仕掛研究開発）	<i>Final</i>						
退職給付（割引率）	<i>Final</i>						
投資不動産	<i>Final</i>						
<b>2.既存の差異に関連するプロジェクト項目（中期）</b>							
企業結合(ステップ2:フェーズ2関連)					DP		ED
企業結合(ステップ2:のれんの償却)					DP		ED
無形資産							DP
過年度遡及修正(会計方針の変更等)				ED		Final	
廃止事業				DP		ED	Final
<b>3.IASB/FASBのMoUに関連するプロジェクト項目（中長期）</b>							
連結の範囲			<i>DP</i>			ED	Final
財務諸表の表示(包括利益等)				DP		ED	Final
財務諸表の表示(フェーズB関連)				DP			
収益認識					DP		
負債と資本の区分							
金融商品(現行基準の見直し)				DP			
金融商品(公正価値測定)				DP			
退職給付			<i>DP</i>				
リース							
<b>4.IASB/FASBのMoU以外のIASBでの検討に関連するプロジェクト項目（中長期）</b>							
1株当たり利益		<i>専門委</i>		ED		Final	
引当金		<i>専門委</i>			DP		ED
保険							

【凡例】

**WG** ワーキング・グループ設置

**専門委** 専門委員会設置

**RR** 調査報告 (Research Report)

**DP** 論点整理・検討状況の整理 (Discussion Paper)

**ED** 公開草案 (Exposure Draft)

**Final** 会計基準/適用指針等（最終） なお、斜体文字は終了イベント

## 14. お知らせ

### 1) 刊行物のご案内

機関誌「季刊 会計基準」第 24 号（2009 年 3 月 15 日刊行）

#### 【主な内容】

- ✓ 特集 1：“我が国企業に対する IFRS 適用についての将来展望”…企業会計審議会企画調整部会「我が国における国際会計基準の取扱いについて（中間報告）（案）」に対する市場関係者のコメント
  - “日本版ロードマップへの期待” 島崎憲明 住友商事代表取締役副社長執行役員
  - “グローバル時代を迎えた公認会計士の役割” 増田宏一 日本公認会計士協会会長
  - “市場開設者から見た国際会計基準の適用” 斉藤惇 ㈱東京証券取引所グループ代表取締役社長
  - “新しい参画の時代へ向けて” 鈴木行生 ㈱日本証券アナリスト協会会長
  - “IFRS 導入に向けた ASBJ の課題” 逆瀬重郎 企業会計基準委員会副委員長
- ✓ 特集 2：“グローバル・コンバージェンスへのマイルストーン”～東京合意に基づく短期コンバージェンス項目の終了～
  - “東京合意に基づく短期コンバージェンス項目の終了にあたって” 西川郁生 企業会計基準委員会委員長
  - “EU における同等性評価項目への ASBJ の取組み” 新井武広 企業会計基準委員会常勤委員
  - “EU による会計基準の同等性評価” 井上俊剛 金融庁総務企画局国際会計調整室他

- ✓ Accounting Square：“上場会社法制をめぐる論議” 神田秀樹 東京大学大学院法学政治学研究科教授
- ✓ CFO Letter：“会計基準と生命保険会社” 安倍俊夫 明治安田生命保険相互会社専務執行役

本誌のご購入は[こちら](#)から。

### 2) ASBJ Web セミナーの導入

ASBJ/FASF では、ASBJ にて開発した会計基準等の一層の普及を図るために、主に財務諸表作成者の皆様を対象としたセミナーを ASBJ/FASF の Web サイトにて公開する予定です。本セミナーは、会計基準等を実際に開発に携わった ASBJ のスタッフが、生の声で、できるだけ判り易く解説するものです。また、当該基準と IFRS との比較も行うなど、実務家の皆様には有益なツールとなるものと考えております。

導入は、5 月下旬から 6 月上旬を予定しております。なお、本サービスは FASF 会員限定のサービスとなりますので、予めご了承ください。

“ASBJ Newsletter”（第8号）

2009年4月20日発行

発行：企業会計基準委員会／財団法人 財務会計  
基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20階

編集・発行人：丸山顕義

制作：広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail：[publicity@asb.or.jp](mailto:publicity@asb.or.jp)

Fax：03-5510-2712